

2-6 各部の納まり詳細図

木造軸組下地

縦張り

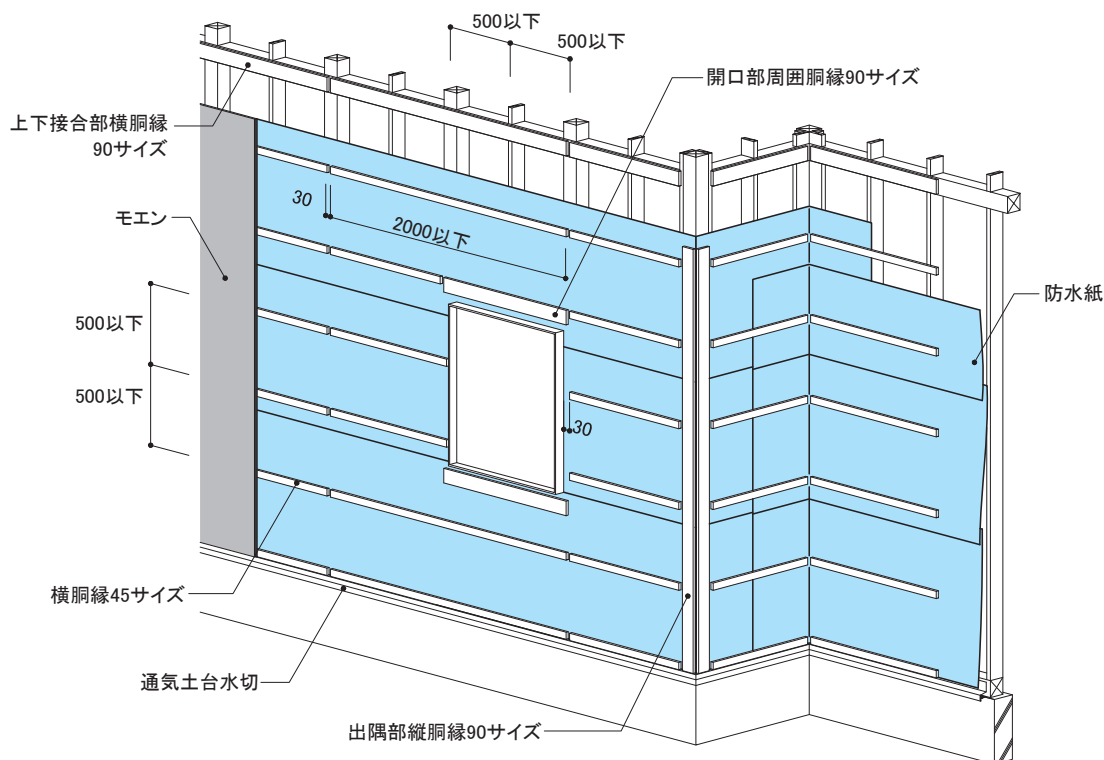
釘打ち施工

1) 基本構成図・下地組図

横胴縁(1. 5尺×10尺、3尺×10尺)

- 通気土台水切は胴縁組みを行う前に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工します。
- 入隅部や出隅部などで、胴縁が躯体に留め付けられない場合は追加下地を設け、必ず下地に留め付けるようにします。
- 下地組みは図のように木胴縁を使用し、スギ材は厚み18mm以上、ベイツガ材は厚み15mm以上の乾燥材を使用します。ただし、耐力面材がない場合は、厚み18mm以上の乾燥材を使用します。
- 木胴縁の幅は45mm以上を標準サイズとし、出入隅部や開口部まわりなどの指定箇所には90mm以上を使用します。
- 木胴縁はN65、CN65以上の釘またはφ3. 8mm×50mm以上のビスを使用して500mm以下の間隔で躯体に留め付け、仕上げ面の不陸(段差)は3mm以下となるように調整して施工します。
- 下地組みは、必ず通気ができるように2000mm以下の間隔で、30mm程度の隙間を設けます。
- 開口部まわりの横胴縁は30mm程度の隙間を設け、通気する構造とします。
- 積雪地域では、積雪の高さまで補強胴縁を取り付けます。(P34参照)
- モエンは胴縁ごとに、モエン用釘(ステンレスリング釘φ2. 5mm×43mm)で1. 5尺品は3本、3尺品は5本留めします。

※モエン縦張り下端小口面および切断小口面は、モエンシーラーを十分塗布し乾燥後、切断小口が見える部分については専用補修液を塗布します。それ以外の部分はモエンシーラーを再度塗布します。



小口処理 モエン縦張り下端小口面および切断小口面は、モエンシーラーを十分塗布し乾燥後、切断小口面が見える部分については専用補修液を、それ以外の部分はモエンシーラーを塗布します。

釘頭 釘頭の補修は目立つ箇所のみとし、専用補修液を使用し、必要最小限の範囲に塗布します。